



都志見新聞

(医)医誠会都志見病院
<http://tsushima.jp>

発行部数 500部
 発行月 1, 4, 7, 10月
 発行人 都志見病院
 広報委員会

新年明けましておめでとうございます。

この場に自分が存在する重なる偶然がもたらした幸運に感謝と喜びの気持ちをこめて挨拶を述べさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症は未だに変異株が出現し完全終息には程遠い状況が続いております。一方でワクチン接種率の向上や治療薬の開発が進み、感染症の類型分類の見直しに向けた議論が本格化してきました。国は感染対策と経済活動の両立を図る、いわゆる「ウイズコロナ」を推進し国民の行動規制緩和に舵を切りました。しかしながら重症化リスクを有した患者様の入院を扱う病院では今後も「ゼロコロナ」体制を維持せざるを得ない状況が続くものと思われます。入院患者様やご家族様には面会制限や診療制限のためご心配やご迷惑をおかけすることになり大変申し訳ございません。

さて、年末に京都清水寺で発表された世相を表す漢字一文字は戦(いくさ)でした。当院の戦はコロナのクラスターとの戦でした。クラスターには職員が一丸となって取り組みましたが、職員感染による戦線離脱が診療機能の低下を招き、2次救急輪番からの一時離脱等を余儀なくされる結果となり多大なご迷惑をおかけしました。コロナのクラスターは長期化すれば地域医療の崩壊につながる可能性を有しており、医療資源が脆弱な地域における重大問題であることを肌身で認識しました。当院は、萩医療圏の感染対策において指導的役割を担っており医師会や行政と協働して萩医療圏のクラスター支援チームの構築を進めてまいります。次に私の個人的な戦は突然ふりかかった病でした。それは萩城下町マラソン2022において、不覚にも意識消失発作を起こしコース上で転倒するという形で訪れました。現場に居合わせた市民ランナーによる心肺蘇生術(bystander CPR)が施され一命をとりとめました。原因は不整脈を誘発した心臓疾患が疑われると判断され、萩市民病院に転院搬送後緊急心臓カテーテル治療が行われました。幸いなことに軽症のため8日間の入院後、後遺症なく退院いたしました。高度急性期医療においては救急現場における一次救命処置やAED(自動体外除細動器)の普及等が重要であること、また迅速に根本治療につなげる連携体制が極めて重要であることを実感いたしました。救われた命を大切にするとともに今まで以上に地域医療に貢献することを決意いたしました。この場をかりて今回私の診療に関わって下さった皆様に感謝申し上げるとともに大会関係者に多大なご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

ところで、注目を集めております中核病院形成問題ですが最重要課題は救急医療であります。現在の中核病院形成のスキームが進まない状況であれば、救急医療を主軸としたスキームチェンジが必要であると考えております。医師数が極めて少ない「いわゆる医師少数区域」である萩医療圏の中で完結できる救急医療(いわゆる2次救急医療)について整理しなければなりません。現状で提供できる2次救急医療についてと、今後の医療需要と供給体制から必要とされる2次救急医療について早急に議論する必要があります。私は「多様性と対話から未来の地域医療を創造する」というビジョンを掲げて院長に就任いたしましたが、コロナにより実行過程の進行速度が鈍化しております。今年度は、早急に救急医療に関わるすべての医療機関や行政・福祉関係者の多職種と市民を交えたオープンな対話をを行うべきであると考えております。

最後に、自らが初めての入院を経験し救急医療の必要性、患者様目線の医療、地域に根差した医療の重要性について身をもって認識いたしました。今後も都志見病院は患者様に寄り添った地域密着型の医療を展開してまいりますのでご理解ならびにご協力の程をよろしくお願い申し上げます。今年は戦から和に転じることを祈願し項を締めさせていただきます。

病院長 山本達人





学会発表に行ってきました

段々と現地での学会発表が可能となっていました。
11月には第83回日本臨床外科学会総会が福岡市で
12月には第35回日本内視鏡外科学会総会が名古屋市で
開催され、それぞれ先生方が発表してきました。

日本臨床外科学会

- ・山本達人『医師少数区域における外科医の役割と展望』
- ・酒井豊吾『胃内分泌細胞癌の一例』
- ・原口大希『傍大動脈リンパ節転移を伴う進行S状結腸癌に対する集学的治療』



日本内視鏡外科学会

- ・来嶋大樹『傍大動脈リンパ節転移を伴う進行S状結腸癌に対し術前化学療法 施行後に腹腔鏡下切除術を施行した1例について』

萩市消防本部・都志見病院DMAT隊 合同訓練



11月19日(土)、萩市消防本部と都志見病院DMAT隊の合同訓練が、実施されました。

これは、災害時や大規模事故発生時に消防機関と災害医療チームとが緊密に連携し、人命救助率を向上させることを目的とした訓練です。

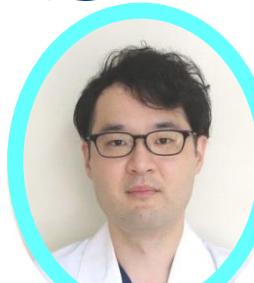


今回は、市内で大規模交通事故が発生したという想定で訓練が行われました。救命活動における関係機関との連携の重要さを再認識し、今後も継続した訓練が必要と感じました。





新入医局員紹介



脳神経外科
殖木 洋平

10月に入局された先生にインタビューしました。

- ① 趣味は？
- ② 尊敬する先生とその理由
- ③ 医師になろうと思ったきっかけは？
- ④ もし医師になっていなければ…？

① ドライブ、スキー、美味しいものの巡り

② 専攻医初期に指導いただいた先輩医師

脳外科医はどうあるべきかを徹底的に指導いただいた。30代であるのに数多くの手術をこなしていて、技術的にも非常に尊敬していた。

③ 小学生の時に腕を骨折して通院した時期、「外科医ってかっこいいなあ」という純粋な憧れから。

④ 国際線のパイロット

退任医師のお知らせ

渡邊晶子医師(脳外科)が9月30日付けで退職いたしました



ケーススタディ発表会



患者様との関わりを通して学んだ“自分の行った看護”を振り返ります。今年度はコロナ禍で紙面発表となりましたが、発表を通して共有することができました。

6階病棟 雲井希世

がん患者様の身体的变化(食べられないこと)に対して今の自分に合った食事方法を見つけることの重要性について学んだ。



6階病棟 横田麻美

入院や治療により、うつ傾向にある患者様のADL維持を行うために取り組んだこと。



城下町マラソン



2022年12月11日(日)に開催された萩城下町マラソンに、都志見ランナーズのメンバーも参加してきました。

途中、何度も大雨に見舞われ、大変なレース展開でしたが、それぞれの目標に向かって諒解の萩城下町を走り抜けました。悪天候の中、沿道でご声援して下さった皆様、大変ありがとうございました！

永年勤続表彰者

令和4年度の永年勤続表彰者は、勤続年数30年1名(右記写真・氏名掲載)、20年3名、10年7名、計11名の授与となりました。

新型コロナウイルス感染症収束への出口が見えないなか、表彰された職員はもちろんのこと、全ての職員が医療従事者として日々懸命に業務に取り組んでおります。これからも病院運営へのご理解、そして職員へのエールをよろしくお願い申し上げます。



松永 真由美

萩地域感染対策連携カンファレンス

10月13日(木)19時より萩市総合福祉センターの1階多目的ホールにて、萩地域感染対策連携カンファレンスが実施されました。

萩健康福祉センター(萩保健所)から感染症に関する情報提供として、感染症発生時の注意事項や、萩医療圏におけるCOVID-19クラスター対策チームの活動報告がありました。

また、新興感染症対策訓練として、都志見病院から感染管理認定看護師による防護服着脱訓練を実施しました。PPEを着脱するうえでの注意事項について資料をもとに説明し講師の看護師によるPPE着脱実演を行いました。



参加者と共にPPE着脱訓練



奥川認定看護師、宮本看護師



♪ 緩和ケア 音楽療法ができる3つのこと♪



緩和ケア委員会の研修として、『緩和ケア音楽療法ができる3つのこと』について院内研修を行いました。参加人数は29名でした。大勢の方に参加して頂きました。緩和ケア音楽療法ができるることは以下の3つです。

- ①身体的苦痛の「痛み・息苦しさ・だるさ」と精神的苦痛の「不安」に対して、音楽を用いリラクゼーションできます。
- ②スピリチュアルペインの価値観の変化にとまどいがある方に対して、音楽を通してライフレビューを目的に介入することができます。
- ③精神的苦痛の苛立ち・怒りに対して内部発散:感情表出をすることでその苦痛を軽減することができます。



今夏より医師の指示のもと、外来患者様1名・入院患者様7名(6階地域包括ケア病棟2名・5階療養病棟5名)に介入しました。

緩和ケア音楽療法を受けられた方には「気分転換できた」「すっきりした」「楽しかった時を思い出して、生きているうちには楽しんで生きようと思った」「体調の活性化でもあり沈静化にもなる」「痛みの軽減になる」「ライフレビューできる」「励ましを得る」「自分を取り戻せる」と声を頂いております。
【ご質問・御相談は、がん認定看護師か音楽療法士 小池までお尋ねください。】





No.19

認知機能低下予防と運動！

以前のコラムで認知症と運動習慣について述べ、その中では運動習慣があることが大切と述べましたが、実際どのような運動が認知機能低下予防に良いのでしょうか。

名古屋大学の研究グループが高齢者 415 名を対象に1有酸素運動^{注1)}、2レジスタンストレーニング^{注2)}、3有酸素運動+レジスタンストレーニング枠見合わせたプログラムを実施し、認知機能向上効果の比較検証を行いました。

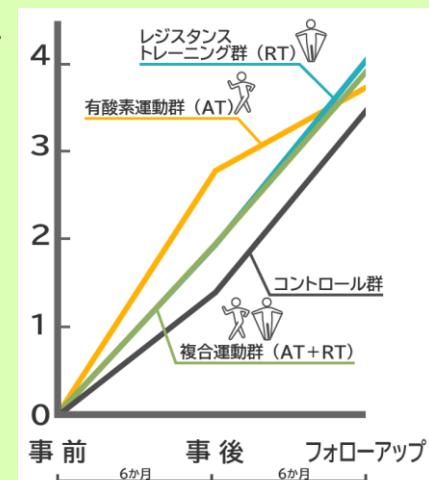
結果としては、有酸素運動を行った群の遅延再生課題成績(記憶力を反映)の有意な上昇が認められ、レジスタンストレーニングを行った群・両方を組み合わせたプログラムを行った群では、こうした効果は見られませんでした。

このことにより同じ運動といっても認知機能低下予防に対して言えば、筋力トレーニングなどの運動よりもウォーキングのような有酸素運動が効果的と考えられ、認知機能が低下する前から予防的に有酸素運動を実践していくことが大切と考えられます。

しかし、以前コラムで書かしていただいた認知症の危険因子の中に慢性疼痛が含まれますので、痛みをみながら無理のない範囲から有酸素運動を始めてください。

何か気になることなどございましたら、当院リハビリスタッフまでお気軽にお声がけください。

注1) ウォーキングなど 2)筋力トレーニング



図・文章は名古屋大学研究成果発信サイト
医師薬学 2022.6.17 より一部抜粋

くすのき掲示板

運動会(10月29日)の様子



なかなかコロナが収束せず、毎月のイベントも保護者様の参加が難しく我慢の日々が続きます。そんな中少しでもイベントの楽しさを共有できるよう、今年の運動会は市民体育館をお借りして保護者様も交えて賑やかに行いました。検温やマスク着用、人との間隔をあけるなどご協力いただき開催することができました。その様子をお伝えします！



かけっこ
0歳児さんもハイハイや歩行でゴールしました！

障害走
年齢に応じた障害走。小道具もいっぱい！

広い体育館での運動会、未満児さんにできるかな、と不安もありましたが親子での競技内容にしたことできども達も安心して参加できていました。保護者様を交えての運動会も3年ぶりだったのでとても楽しく充実した運動会となりました。



遊戯
衣装も華やか！保護者のみなさまにも好評でした！